

主役は俺だ－ 2022年秋⑤

■高坂駿佑（たかさか・しゅんすけ） 釧路公立大 WR／DB 2年

周囲の度肝を抜く先制TDキャッチだった。昨年の道学生選手権1部の5、6位を決める順位戦。室蘭工業大と対戦した釧路公立大は第2Q6分、敵陣31ヤードからQB柴田雅大（当時4年）がパスを投じた。DBと競り合いながら左サイドライン際へ駆け込んだ高坂が懸命に右腕を伸ばし、見事にワンハンドキャッチ。そのままエンドゾーンに飛び込んだ。「必死で手を伸ばした。練習でも出来なかったのに」と、チームに勢いを呼び込んだスパークプレーを振り返った。結局、釧路公立大は63－0で念願の1部初勝利。高坂もリーグの新人賞に輝いた。

滝川西高では野球部の内野手。2年生で北北海道大会に出場したが、3年生の夏は新型コロナウイルス禍で甲子園大会が中止になり涙をのんだ。実家が自営業で、経営を学びたいと釧路公立大に入学。「上を目指せるスポーツを」と、創部34年目で初の1部に挑戦するアメフト部に飛び込んだ。柴田先輩から「QB向き。まずはWRでボールに慣れろ」と助言を受けWRに。キャッチセンスを認められて、1年生から先発に抜擢された。「1年生なのにパスを投げてもらい、TDも取れた。先輩に感謝です」と充実のルーキーイヤーになった。



177センチ、80キロとバランスの取れた体と捕球力。今季もチームの得点源の期待がかかる。「足は速くないけれど、滝西野球部で鍛えられたあきらめない心が自分の持ち味」という。ボール扱いも「小さい頃から器用だった」と自信を見せる。2年目の1部の舞台を前に「最終戦までレシーバーとして試合に出続けることが第一。その中で食らいついていけば、TDも取れる。どん欲に攻めたい」と決意する。

残念ながら釧路公立大は、新型コロナウイルスの陽性者が複数確認され、開幕戦（8月28日）の北海道大戦を棄権に追い込まれた。第2節（9月4日）の帯広畜産大戦が仕切り直しになる。「好きな言葉は努力。滝西野球部でも最初はうまくなかった。模索していくのが好き」というコツコツWRが出番を心待ちしている。

〈プロフィール〉

2003年2月17日、砂川市生まれ。経済学部経営学科。滝川西高出身。177センチ、80キロ。尊敬する選手は、昨年の主将のWR泉川溪太。「WRとしての心構えを教えてもらった」と感謝する。